

おおじしんりょうかわぐちつなみき 大地震両川口津波記 碑文

おおじしん はっせい いえいえ 大地震が発生し、家々は崩れ落ち、火災が起こった。その恐ろしい様子が  
おさまったころ、大きな津波が押し寄せ、東堀まで約一・二メートルの  
深さの泥水が逆流してきた。安治川や木津川の橋はすべて崩れ落ちた。  
船は横転し、川筋にはあつという間に壊れた船の山ができた。地震がき  
ても水の上なら安心だと小船に避難していた人々や川岸に作った小屋  
に避難していた人々など、多数の人が犠牲になった。

ほうえい 宝永の大地震の時も、小船に避難したために津波で水死した人が多かつ  
たと聞いているが、伝え聞く人がほとんどいなかったため、今また多数  
の犠牲を出してしまった。ここに記録しておくので、心ある人は碑文が  
読みやすいように時々墨を入れて、伝えていってほしい。

よっしじ 擁護爾 碑文

じしん 強い地震が二日続いた。その後、急に津波がおこり、川岸に繋いでいた船  
はすべて綱が切れてぶつかり合って壊れ、橋が八つも落ちた。

どぞう 地震や津波で家はつぶれ、土蔵は傾いた。津波の恐ろしさは言いようも  
ない。しかし、かつて宝永年間あつた同じような地震と津波でも船に  
避難して命を落とした人が多かつたことを言い伝えてきた近隣の住民  
は、神社の広い境内に避難して、けが人は一人もいなかった。

かわすじ 他所の海岸や川筋では、地震を避けるために小船で川に避難したところ  
に、津波で流された大きな船がぶつかり、亡くなった人が無数にいたそ  
うだ。強い地震のときは、決して川船に避難してはいけない。地震が強い  
ときは津波があると知っておく必要がある。